

Tさんは、奥様も子どもさんもおられない一人暮らしの

というお問い合わせでした。

「失礼ですがお宅のお檀家さんにお寺にお電話がありました。お一人暮らしのTさん（仮称）って方がおられると思うんですが、実は末期の癌で当院に入院されているのですが、この度病院の緩和ケアに転院されることになつたのです。身寄りの方がないので、病院とし

て困っているんです。どうなつかご存じないでしょうか？」

病院の入退院支援センターの看護師さんから突然お寺にお電話がありました。

「ご本人様が自分が死んだら法性寺に納骨してもらう、と、仰つておられるのですが、果たして出来るんでしょうか？」

ある日の事です。
お一人暮らしの
皆さんへ



方です。お寺にはお檀家さんの家族構成やご兄弟やご親戚などの記録がありませんので、

「申し訳ございません、お寺では把握しておりませんが」

そう答えましたら、

「ご本人様が自分が死んだら法性寺に納骨してもらう、と、仰つておられるのですが、果たして出来るんでしょうか？」

身寄りの無い方等の民生関係の葬儀のお世話をされてい

る方に尋ねたら、全て役所の福祉課が戸籍などを調査し、火葬の取り仕切りをされて、火葬後の遺骨は市町村指定の無縁墓に合祀されるとの事でした。

「ご先祖やご両親がお寺に眠つておられても、お寺に遺骨を納めることはできないと死は、生きとし生けるもの全てに必ず訪れます。

それが、いつ、どのようにして訪れるのか、誰にも分かりません。ただ、今を一生懸命生きるために、一番大事なことは、『死を意識して』今をありがたく生きることです。

「まず臨終の事を習うて後に他事を習うべし」これこそ、日蓮聖人が私たちに遺されたお言葉です。

お寺としても、何かお役に立つことがあると思いますのでご相談下さい。

住職

さんを探し出しました」との

こと。

早速弟さんと連絡を取つて頂き、万が一の折の終活の話ををする事が出来ました。

時のことを考えた上で、日々の生活を送られて下さい。

連絡先を財布の中に入れたり、部屋に張つたり、頼れる方がいたら、何でも相談なさつて下さい。

ましたが、生前にTさんはお戒名を受けられ、弟さんがお兄さんの名義を引き継がれることとなり、Tさんはご両親と同じ納骨堂に入ることが出来るようになりました。

お寺にもこのようなケースに各方面からお尋ねの電話があるのですが、個人の情報なので相手の状況を把握するまではお檀家さんの情報をお知らせすることはありません。

たとえご親戚であつても、連絡先をお伝えしたりすることは致しません。

しかし、状況判断によつて一番よい選択をして事にあたっています。

お一人お一人が、今一度ご自身のことをお考えになり、今やつておかなければならぬことを、今報せておかなければならぬことを、後にはさずやつて下さい。

お寺としても、何かお役に立つことがあると思いますのでご相談下さい。

お一人で生活をなさつている方、家族と離れてお一人で暮らしている方は、万が一の